

高大連携、地域をテーマに分かち合う公開講座 －八王子甲州街道と神保町活性化デザイン計画の提案－

A Public Lecture on High School and University Cooperation and Its Contribution to the Region
: Hachioji Koshu Kaido and Kanda Jimbocho Revitalization Proposal

田中裕子¹⁾、晴山誠也²⁾、林田廣伸¹⁾

Yuko TANAKA, Seiya HAREYAMA, Hironobu HAYASHIDA

1. 要旨

筆者らは、本学園主催による公開講座において、地域を題材に、学生・生徒による発表を取り入れた講座を行った。「甲州街道と神保町」と題し、2018年10月27日、共立女子第二中学校高等学校（以下、第二高）において開催された当該講座は、次の三部構成とした。一）共立女子大学家政学部建築・デザイン学科デザインコース4年生の学生が演習授業で取組んだ「神保町周辺活性化デザイン計画2018」の発表、二）第二高の生徒による「八王子甲州街道」の商店街について調査・制作したマップの発表、三）これらの取組について市役所職員、地元商店主、大学教員、会場来場者を含めたパネルディスカッション。講座の運営は、講義形式による一方向性のものではなく、学生・生徒・市民を交えた双方向型を指向した。本稿は、その取り組みの報告である。

2. 背景とねらい

本学園主催により、広く一般に向けた公開講座が継続的に開催されている。2018年10月には、「共立女子大学・共立女子短期大学 公開講座2018」が開催され、当該講座のうち、八王子キャンパス講座「甲州街道と神保町 活性化デザイン計画を考える。」（以下、本講座）において、筆者らはその担当を務めた。

筆者らのうち田中・林田が教員として携わる

建築・デザイン学科デザインコースでは、2015年度より4年次配当の演習授業において、地域活性化施策の企画・制作提案として「神保町活性化デザイン計画」の取り組みを続けている¹⁾。また、その演習成果の発表会を、神保町地域の方々をゲストに毎年7月の下旬に開催してきた。

本講座の担当を拝命するに至ったご縁は、公開講座の企画・構成にあたって地域連携と双方向性の参加型プログラムを模索されていた当時の学長であった入江和生元学長より、前述のデザインコースの取り組み実績を評価いただいたことに端を発する。2018年の公開講座全体の中で、八王子キャンパスでの開催と、そのテーマに地域連携を見据えたものとして位置付けられた本講座は、入江元学長からのバックアップもあり、高大連携の取り組みとして、大学の建築・デザイン学科デザインコースと第二高による共同担当となった。そこで、田中と林田は2018年1月6日に学生課の職員である中川正氏と共に、八王子甲州街道の現地調査を行なった。

こうした背景もあり、担当者間で講座内容の検討を進めるなか、講座の題材に地元地域として甲州街道の沿道および神保町の両地域を取り上げること、また講座の内容の中心を、生徒・学生の視点による街のあり方の検証と提案とすることなど、次の4項目を講座の柱として定めた。

①高大連携であること

1) 共立女子大学、2) 共立女子第二中学校高等学校

- ②地域社会への取り組みであること
- ③生徒・学生の発表の場であること
- ④市民参加型であること

公開講座は地域に開かれた教育機関であることを体现すべく企画され、その内容は受講者の知的意欲に応えるものであることが求められる。前述の講座の柱は、日頃気を留めずに通り過ぎてしまいがちな地元を改めて目を配り、根付いた文化や歴史を改めてひもとくとともに、高校生・大学生の若い発想を加えることで、本講座の受講者に地域に対する新しい視座を提起することを企図したものであった。

これらのねらいを実現すべく、公開講座タイトルを「高・大・市民連携参加型講座 八王子甲州街道と神保町 活性化デザイン計画の提案」とし、内容を以下の通り構成した(図1)。

第一部 神保町活性化デザイン計画 (大学生発表) 13:30 ~ 14:20

- 第二部 甲州街道の歴史と現状
共立二高生がつくった八王子甲州街道マップ (高校生発表) 14:30 ~ 15:20
- 第三部 甲州街道についてのパネルディスカッション 15:30 ~ 16:15

受講者は共立女子第二中学校高等学校の生徒(高校1・2年生全員300名)および保護者のほか、他校高校生、一般参加者など、全400名を想定した。

また、第三部のパネルディスカッションは、学生代表2名、生徒代表2名の他、開催地の八王子に縁のある方(詳しい紹介は後述)で構成した。また、公開講座終了後、学生課主催でパネラーの他、大学生や高校生、高大教職員で、多世代をつなぐ懇親会を企画した。

3. 学生・生徒による発表と準備の取り組み

本講座における発表に向けて、大学・高校のそれぞれで取り組みを進めた。

3.1. 大学における取り組み

すでに述べたとおり、共立女子大学のデザインコースでは、4年次配当の演習科目「グラフィックデザイン演習Ⅲ」において、地域活性化の施策提案「神保町活性化デザイン計画」に取り組んでいる。4年間神保町に通う学生が、第二の地元としての神保町を改めて見つめ直し、活性化施策をグラフィックデザインの手法を通して提案する試みである。

2018年度は、6チーム(計27名、1チーム4~5名)がそれぞれ個別テーマに取り組んだ。4月から7月末までの計15回にわたり、学生は調査・研究に基づくコンセプトメイキング及び、デザイン開発を行なった。プレゼンテーションやチームの中の意見交換、教員の指導が繰り返し行われた。各プロジェクトにおけるデザイン提案の内容を以下に記す。

①神保町マンホールのフタ・プロジェクト

近年、地域に由来する文化や歴史、名所、名産などがデザインされたご当地マンホールふた

The poster features a central title '八王子 甲州街道と神保町 活性化デザイン計画の提案' (Hachioji Kamakura Street and Shinbocho Activation Design Plan Proposal). It includes the following text:

- 共立女子大学 共立女子短期大学 八王子キャンパス公開講座 2018**
- 高・大・市民連携参加型講座**
- 受講料 無料 先着順** (Application fee: Free, First-come, first-served)
- 2018年 10月 27日(土) 13:30~16:30** (October 27, 2018, Saturday, 13:30-16:30)
- ※開場は 13:00 より** (Opening at 13:00)
- 共立女子第二中学校高等学校 八王子キャンパス大講堂** (Hachioji Kaneko High School, Hachioji Campus Grand Hall)
- 第一部 神保町活性化デザイン計画 13:30~14:20** (Part 1: Shinbocho Activation Design Plan, 13:30-14:20)
- 第二部 甲州街道の歴史と現状 14:30~15:20** (Part 2: History and Current Status of Kamakura Street, 14:30-15:20)
- 第三部 甲州街道についてのパネルディスカッション 15:30~16:15** (Part 3: Panel Discussion on Kamakura Street, 15:30-16:15)

図1 高・大・市民連携参加型講座 公開講座チラシ

に注目が集まっているものに着目した企画である。神保町の街を楽しむ仕掛けとして、神保町特有のデザインのカラーマンホールを配置する提案を行った。キーメッセージ：「共立女子大生が描いた神保町マンホールものがたり」（図2）

②本・楽器・スポーツ大バザール会・プロジェクト

神保町は書籍が有名であるが、楽器やスポーツに関する店舗が豊富で有名であることがあまり知られていないことに着目した企画である。現状、本・楽器・スポーツそれぞれのイベントが神保町で行われているが、3つが同時に集まって行うイベントはないため、学生や若者をターゲットとして、本・楽器・スポーツ全てを一箇所に集めたイベントを提案した。キーメッセージ：「バラソルの下に集合！本、楽器、スポーツ用品がお買い得！」（図3）

③アマゾンをおぶっとばせ！新刊書店・プロジェクト

ネット通販の出現により、書店の売り上げと、書店そのものの自体が減少している現状に着目した企画である。神保町の新刊書店を盛り上げる施策として提案を行った。キーメッセージ：「神保町にブックカウンセラー誕生！」（図4）

④神保町無名路地開発・プロジェクト

神保町に現存する昭和レトロを思わせる情緒ある建物や、雰囲気が残る路地に着目した企画である。こうした無名路地に名前を付けて、神保町の路地の魅力を伝え、賑わいをもたらすことを目的とした施策を提案した。キーメッセージ：「誕生！神保町こども通りフェスタ」（図5）

⑤神田古書店連盟のれん・プロジェクト

神保町が、数多くの古書店が集う世界最大級の「本の街」として知られていることに着目した企画である。古書店は入りづらい、と感じている人をターゲットに、先入観の払拭を目的としたデザインの提案を行った。キーメッセージ：「いらっしゃい。世界一の本の街、神保町」（図6）

⑥神保町グルメかるた・プロジェクト

神保町は個人飲食店の数も多くグルメの街としても有名だが、店主の高齢化や後継者問題などにより、個人飲食店が次々と閉店している現状に着目した企画である。前年の演習での学生提案から製品化された「神保町グルメかるた」を用い、個人飲食店の活性化に繋げるイベント企画を提案した。キーメッセージ：「共立女子大生と真剣勝負!! 神保町グルメかるた道場」（図7）

「甲州街道と神保町活性化デザイン計画の提案」において学生はデザインの成果発表を行った（図8）。大学という教育機関においてその価値を示すものの一つに真理の追求がある。学生は地域の空気を吸い、地域の人たちと交流し、自分の心で感じ、自分の頭で考え、自分の足で行動し、自分と仲間たちとの手を使ってデザインを起こし、自分たちの口で言葉を発し、プレゼンテーションを行った。これらは全て、人と人との交流を通して考え行動した事により得られた成果である。それらの体験が真理の一部としての血と肉になることを希望してやまない。

3.2. 高校における取り組み

毎年10月下旬に八王子キャンパスにおいて実施される高大連携・地域貢献を目的とした共立女子大学・短期大学公開講座は、高校生が「大学の学び」を体験できる貴重な機会として生徒はもとより、保護者・地域の方々から高い評価を得ている講座である。

特に2018年度の本講座においては、その準備段階から講義形式の「一方通行型」ではなく、学生・生徒・市民を交えた「双方向型」いわゆるアクティブラーニングの手法を用いて展開するという方針が早々と打ち立てられ、過去に例を見ない企画に多くの関心が寄せられた。その背景としては、2022年度からの高校学習指導要領の改訂の一つとして予定されている「総合的

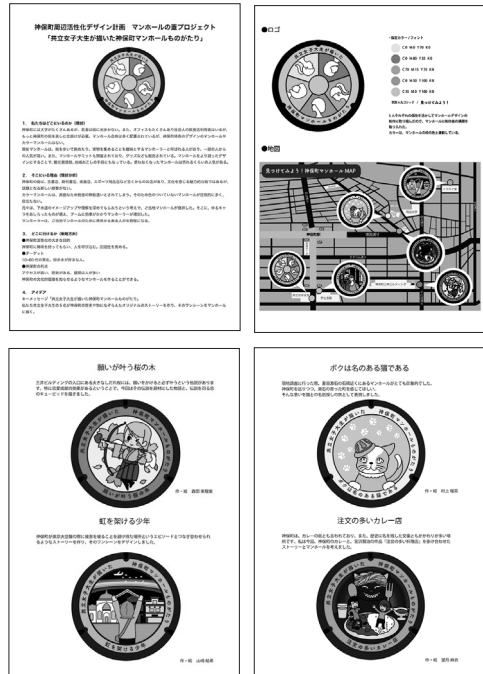


図2 第一部「神保町周辺活性化デザイン計画2018」①神保町マンホールのフタ・プロジェクト
共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 デザインコース 学生デザイン



図3 第一部「神保町周辺活性化デザイン計画2018」②本・楽器・スポーツ大バザール会・プロジェクト
共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 デザインコース 学生デザイン



図4 第一部「神保町周辺活性化デザイン計画2018」③アマゾンをぶっとばせ！新刊書店・プロジェクト
共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 デザインコース 学生デザイン

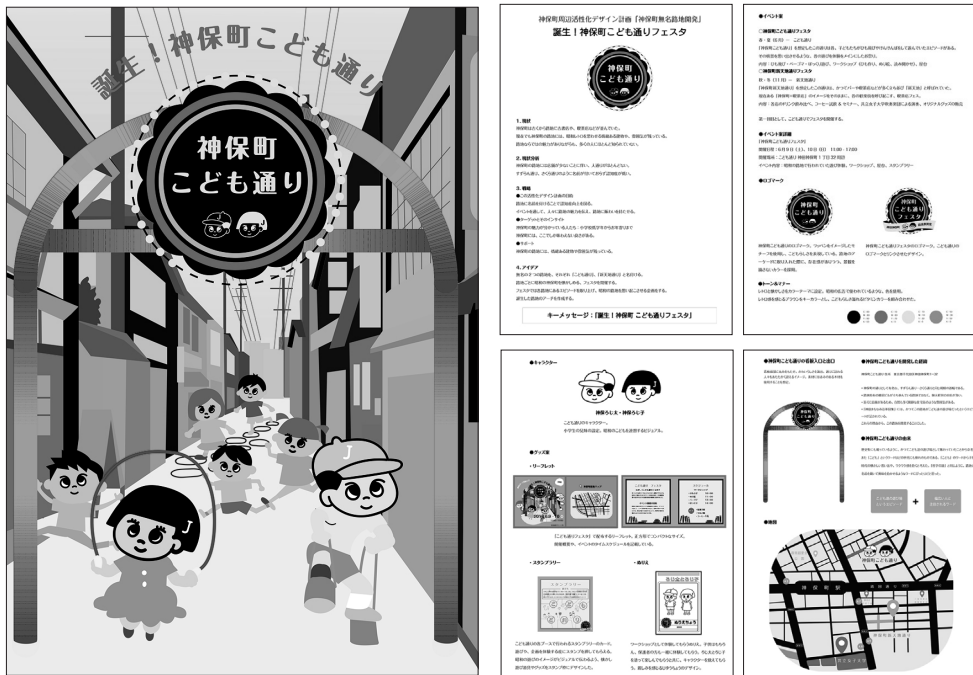


図5 第一部「神保町周辺活性化デザイン計画2018」④神保町無名路地開発・プロジェクト
共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 デザインコース 学生デザイン



図6 第一部「神保町周辺活性化デザイン計画2018」⑤神田古書店連盟のれん・プロジェクト
共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 デザインコース 学生デザイン



図7 第一部「神保町周辺活性化デザイン計画2018」⑥神保町グルメかるた・プロジェクト
共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 デザインコース 学生デザイン



図8 第一部「神保町周辺活性化デザイン計画2018」
共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科
デザインコース 学生発表の様子

な探究の時間」を「共立探究」と称して本校カリキュラムに早期導入し、様々な研究やプレゼンテーションに取り組んだ最初の年であること、本校の文化祭（名称：白巫祭）において中学時代に「八王子」をテーマに企画に取り組んだ経験のある生徒が多いことなどがあげられる。

本校ではこの企画を受け、対象学年となる高校1・2年の学年主任および学年団の協力を得て、本企画の準備に取りかかった。以下、順を追ってその取り組みをまとめたい。

（1）2018年5月31日 高校ワーキングチームの募集

活動期間の中心が夏休みになることを想定し、クラブ合宿や文化祭、修学旅行等の準備と並行しての取り組みを考えると、学年全員での取り組みは困難であることが予想されたため、有志ボランティアの形でワーキングチーム（以下WT）の募集を行った。活動の内容としては、現地訪問・取材、マップ作りを前提としたが、高校1年生より8名、高校2年生より2名の申し出があった。いずれの生徒も部活や海外研修等を控えていたが、自ら名乗り出たその意志を尊重し合計10名のメンバーでスタートした。

（2）6月21日 WT説明会

この時点で予定されている講座の主旨と概要

をスライドを用いて説明。学生による「神保町活性化デザイン計画」と一緒に発表することに多少の戸惑いの色を見せたが、これまでになかった初めての取り組みであること、地域の方々も参加する企画であることに意欲を示してくれたようである。

（3）7月23日～26日 現地取材

定期考査等が間に入り、進展が滞っていたが、1学期終了とともに本格的な活動が始まった。7月23日、学園よりスクールバスを利用して八王子駅に一旦集合。当日は折りからの猛暑に見舞われ、熱中症対策指導を事前に行った上での取材である。引率として高1・2の各学年主任に同行してもらった。甲州街道の横山町を起点に、商店・蔵（八王子甲州街道界隈には今でも蔵が多く見られる）、公共施設等をポイントに追分町までの約3.5kmを徒歩で巡った。

地元の方々は大変協力的で、気さくに取材に応ずるだけでなく休憩場所として涼んでいくよう勧めてくれたりもした。日頃、スクールバスの車窓からしか眺めることのない生徒たちにとって、地元感覚の芽生えがあったのではないかと思われる。

最終日には八王子市郷土資料館に行き、郷土の歴史について調べた。この資料館は過去にも社会科学見学や文化祭の資料提供など多くのご協力をいただいていた。本校の関係者も勤務され、ここにおいても地域連携を実感できたのではないだろうか。

（4）8月1日～10日 パネリストの依頼

パネルディスカッションでのパネリストとして、地元商店会の方1名と八王子市役所の方1名を予定していたが、これについては教員が対応することとした。依頼にあたり、本校および共立短大卒業生の坂本直美氏（地元で呉服店経営）に相談したところ、歴史や町おこしに関わる数名の方を紹介してもらった。その中から八日町（かつての八王子の中心街）で長く仏具店を営む丹羽京子氏と市産業振興部の三吉徳浩氏に依頼することを決定した。ちなみに丹羽氏は

前述の坂本氏とともに、本校生徒への浴衣の着付け指導をしていただいているというご縁がある。また、三吉氏は偶然にも「甲州古道」のマップ作りに関わっており、この依頼を快く受け入れてくれた。

後日、校長名で文書を作成し、各職場へ出向いて正式に依頼を行った。

(5) 8月27日～30日 マップ、基本資料制作

各担当に分かれての作業をPC教室等で行った。取材結果より、「甲州街道の歴史と現状」(図9)と「共立二高生がつくった八王子甲州街道マップ」(図10、11)の2本立てでスライドにまとめることになった^{2)、3)、4)、5)、6)、7)}。また、イラストマップに関しては本校漫画研究部に協力を依頼し、より多くの人に受け入れられやすい手作り感あふれる作品を目指した。

(6) 9月～10月 仕上げ・発表準備・パネルディスカッション準備

2学期に入り、学校行事のためまとまった活動が困難となり、それぞれの分担作業となった。本番に向けた本格的なりハースルが行われたのは10月に入ってからである。

パネルディスカッションについては司会進行を担当することとなった晴山がフローチャートを作成し、パネリスト全員(学生・生徒・教員・地域各2名)に事前に伝えておき、ディスカッションの流れについて把握してもらった(図12)。

この間、生徒の担当も決定し、本番3日前に発表練習を実施。高2の生徒が進行役を務めることにより、少しずつ引き締まった内容に近づいてきたと思う。

以上のような準備を経て本番を迎えることとなったが、この間のWTの生徒たちの変化には目を見張るものがある。比較的控えめなタイプの生徒が多かったが、八王子というフィールドを自分の足で巡り、様々な人と出会い、交流することで、バスの車窓からしか眺めていなかった風景に現実感が加わり、自信を持って発表に

臨むことができたのではないだろうか(図13)。

生徒たちの発表を通じ、自分の地元ではなくとも、日々通学する学校がある地域もまた自分にとっての地元なのだという発見があったのではないかと思われる。今後、この体験が自分の住む地域にも活かされるのではと期待すらできる。

聴衆となった他の生徒たちにおいても、大学での学びへの新たな期待感とともに、WTの取り組みを通じて「地域」への関心の高まりがアンケートを通じてうかがえた。

「グローバル」という言葉が広く浸透する中で、実はグローバルの基本は地域から始まり、地域は「学び」のホームグラウンドであることを今回の講座を通じて少しでも体感してもらえたなら本望である。

4. パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、コーディネーターとして筆者の晴山が、またパネラーとして、高校生の取り組みをサポートしていただいた丹羽京子氏(株岡田屋 取締役)、三吉徳浩氏(八王子市役所産業振興部産業政策課 課長補佐兼主査)の2名、第二高校より生徒2名(一年生武藤里緒さん・佐々木慧枝さん)、共立女子大学より学生2名(家政学部建築・デザイン学科デザインコース四年生 渡部はるのさん・盛山真李さん)、大学担当教員2名(筆者の林田、田中)の計9名が登壇した(図14)。

はじめに、大学生から、取り組み当時の状況や感想を当事者の視点から報告を行なった。苦労や成果を実感した点、対象である神保町に対する自身の視点の変化や再発見した魅力について、また提案内容を作り上げる課程で注力した点や大学生から見た高校生の取り組みについての感想などを述べた。

次に、大学担当教員から、地域活性化をテーマとした授業を設けた意図や、今後の展望・展開を含めて、地域に果たせる学生の役割などについて紹介した。

八王子の歴史

～甲州街道を中心に～

絹・織物

- 第一次世界大戦により好景気になった
- 電力が普及したことにより機械工業が発達した
- 東京株式市場の暴落により商品が売れなくなる
- 流行を取り入れることによって再び急速した

八王子織物の製品

花巻入りフックカバー
花巻入りネクタイ
ビー・タイ

八王子空襲

- 宣言ビラがまかれた
- 世界大戦の末期に八王子は空襲を受ける
- B29の襲撃

宿場町

- 五街道の一つ甲州街道の中の大きな宿場町が八王子宿です

戦後から現代

- 教育の復興
- 八王子祭
- 町村合併
- 住宅団地の開発

滝山城跡

八王子城

- 北条氏照
- 滝山城で武田軍との戦い

図9 第二部「甲州街道を考えよう」 共立女子第二高等学校 生徒作成
「八王子の歴史～甲州街道を中心に～」スライド



◆荒井呉服店

大正元年創業の老舗。着物専門店
リーズナブルな物から
高級なものまで扱っている。
店内は広く、多くの着物でとても
華やかな雰囲気である。
人生の節目を彩る際におすすめ。



◆坂本呉服店

創業は85年前の老舗。
今の方で3代目になる。着
物専門店。
今現在、店舗がある場所
には、もともと蔵が建って
いた。
お店の内装は、洋服店を思
わせる。




◆Sweets Factory

去年八月にオープン。
プリンとシフォンの専門店。
おすすめは、贅沢くちどけ
プリンは多摩の逸品コンテ
ストでグランプリを受賞した。
オリジナルクッキーが
作ることができる。




◆網代園

創業は120年前の老舗。
戦火を堪えた蔵を
所有している。
内装は、思わずほっとする
雰囲気。
気軽に立ち寄るのに
おすすめ。



◆岡田屋

創業は152年前の老舗。
平成になるまでは、多摩地区
最古の仏具店のひとつだった。
様々なデザインの仏具を
取り扱っている。
また、お線香も取り扱っており、
こちらもデザインが豊富。
仏事関連の相談にもってくれる。




◆Kikki+

去年5月オープン。
NPO法人として営業している。
赤ちゃん連れからお年寄りまで
幅広い人気がある。
内装に多摩地域の木を
使っているため
木の温かみを感じられるもの
となっている。



◆八王子織物工業組合

来年創業120周年を
迎える。
織物の街
八王子を支えてきた。
組合が入る
ビル一階の店舗では、
P-tieが人気。



◆筆と額のイワイ

明治から続くお店である。
額縁・筆ともに種類がある。
持ってきた絵を額に
入れてくれる。
また、書道・習字を
やっている人におすすめ
したい。



◆加島屋

江戸時代後期から150年続く。
今の店主の方で6代目。
荒物加島屋。
古くから塩やせっけん、油な
どの日用雑貨を売っている。
とても歴史ある建物。



図10 第二部「甲州街道を考えよう」 共立女子第二高等学校 生徒作成
「八王子甲州街道今昔ぶらりマップ」スライド

高大連携、地域をテーマに分かち合う公開講座



図11 第二部「甲州街道を考えよう」 共立女子第二高等学校 生徒作成
「八王子甲州街道今昔ぶらりマップ」

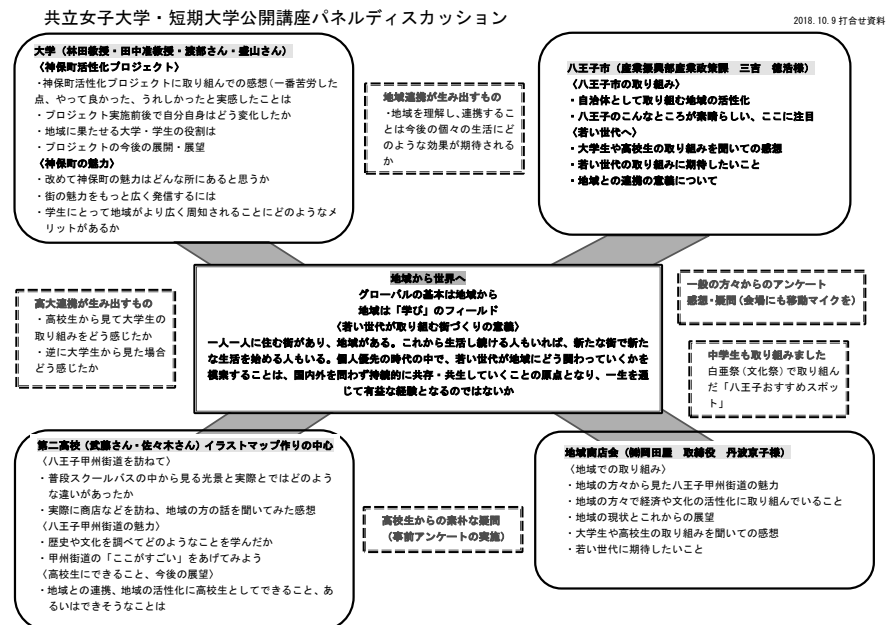


図12 第三部「甲州街道についてのパネルディスカッション」構想図

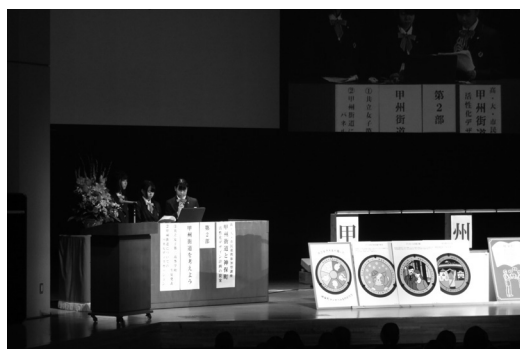


図13 第二部「甲州街道を考えよう」
共立女子第二高等学校 生徒発表の様子



図14 第三部 甲州街道についてのパネルディスカッション

続いて、高校生が、取り組みの対象であった八王子甲州街道を自身の足での調査を通じて得た発見、商店の訪問調査など地域の方々との交流の感想、高校生から見た大学生の取り組みについての感想など、意見を述べた。

その後、高校生の取り組みをサポートいただいた丹羽氏、三吉氏から、地域の当事者から見た高校生・大学生の取り組みについての感想、自治体として地域活性化の取り組みの実例、八王子や甲州街道の魅力、若い世代に期待したいことなど、それぞれ発表いただいた。

また、会場の受講者からも、大学・高校の取り組みへの質問や意見、感想が数名から寄せられた。

おわりに、筆者らが本講座の総括を行なった。本講座を起点にして連携の輪が年代を問わず広がること、また地域に関心と愛着を持った若い世代が社会に羽ばたくこと、それらを参加者・受講者一同が期待しているとして、パネルディスカッションを終了した。

5. 本講座による成果

本講座による成果は、大きく二つに分けて考えることができる。一つは、高大それぞれの取り組みで得た講座のコンテンツを作り上げる課程での成果であり、もう一つは、本講座での発表とパネルディスカッションを通じた、講座開催における成果である。

講座コンテンツを作り上げる課程での成果として、学生・生徒はともに、第二の地元として自身の学び舎が置かれた地域に改めて目を向け、問い直し、その地域への働きかけを対外的な発表という形にまとめあげる経験を得た。大学生は「神保町活性化デザイン計画2018プロジェクト」の各施策案を、高校生は「甲州街道の歴史と現状」と「共立二高生がつくった八王子甲州街道マップ」を、それぞれチームで協力と分担を行い、足りない部分は周囲から支援を得ながら、それぞれの注力が公開講座での発表というかたちで実を結んだ。加えて、大学生の提案施策においては、今後実際に展開する可能性もあることも特筆したい。

また、本講座の開催における成果は、受講者を対象としたアンケートから、高校生、一般参加者のいずれからも好評を得たことがわかった。特に、高校生の回答からは、これまで経験してきた学びと大学での学びの違いに対する驚きや、数年後の自分のイメージを重ねるもの、また地元の歴史への関心と発見などが多くあげられていた。高校2年生からの回答には、発表・提示方法への批評が1年生よりも多く見られるなど、本講座が「気づき」を与える教育の一端を担うことができたこともうかがえる。

以下、本講座終了後に実施したアンケートから、一般参加、高校1年生、2年生、のそれぞれについて要旨を一部抜粋する⁸⁾。(文体は筆

者により統一した)

(1) 一般

○ 第一部「神保町活性化デザイン計画」について

「学生が実際の世の中で受けているサービスをよく調べていて、そのうえでのアウトプットなので提案にリアリティがあり実現性が高い。」

「年齢が若いと自分の好きな色に走ってしまいがだが、そういった人が誰もいなくてとても協調性があり、コミュニケーションも取れており素晴らしい。」

「各チームパネルを使用した発表はインパクトがあり良かった。それぞれの個性も感じられた。ただパネルの内容が遠くから見えず(レジュメの資料も小さく読みにくい) 残念だった。」

○ 第二部「甲州街道を考えよう」について

「八王子の歴史がとてもわかりやすく説明され、長い歴史と伝説が説明を通じてよく伝わった。」

「レジュメは見やすく良かった。最後の方の文章のみのページは写真のページとだぶった内容もあるのでもう少し違う内容も盛り込んでほしかった。八王子の歴史のコーナーは貴重な資料や写真などもっとよく見たかった。お店の紹介は行ってみたいところばかり楽しい紹介が良かった。」

○ 第二部「甲州街道についてのパネルディスカッション」について

「各識者の考えを聞いて『大学と地域の意味』『地域連携』についての共立大学の考え方を学べた。」

「高校生が各店に行って、その店の歴史や町のことをよく調べてあった様に思う。体験が貴重な経験となったのではないか。」

(2) 高校1年生

○ 第一部「神保町活性化デザイン計画」について

「街の活性化の為の案として、こういったものがあるのだと興味を持った。また、その町のことをよくわかっているのだと思い、自分も自

分が住んでいる地域について知りたいと思った。全体的に聞き取りやすい話し方で良かった。」

「マンホールがとても印象に残った。マンホールが実際にできたら、道を歩くのが楽しそう。実現してほしい。」

「とても高いクオリティで、それぞれ違うアイデアで工夫をされていてすごいと思った。取組みがちがっても、大学生の神保町の魅力を伝えたいという気持ちがとても伝わってきた。」

○ 第二部「甲州街道を考えよう」について

「甲州街道の事をはじめ深く知れ、バスに乗っている時には外の景色に意識を向けてみようと思った。」

「通ってはいるものの初めて聞く場所ばかりで、どの場所も戦争を乗り越えて長く続いているのはすごいなと思った。またこういう企画を通して、より多くの人に八王子を伝えていくのも大切だと思った。」

○ 第二部「甲州街道についてのパネルディスカッション」について

「神保町での取組が認められ、実際に行われているプロジェクトもあってすごいと思った。甲州街道には見て通るだけではもったいないほど素晴らしい店があるのだなと思った。私も八王子に通っている生徒として発信したいと思った。」

「大学生が『神保町が第二のふるさと』と言っていて、とても素敵だと思った。」

(3) 高校2年生

○ 第一部「神保町活性化デザイン計画」について

「大学生の方々のカラフルなアイデアの数々、本当に興味深く楽しかった。私は神保町へ行ったことがまだないが、思わず『行きたい!』と身を乗り出してしまうような魅力的なプロジェクトばかりだったので、ぜひ訪れてみようと思う。」

「どのグループも工夫をこらしたアイデアで、神保町に興味を持った。今後の研究発表にいか

せるであろうことも多くあったので、今後活用してみたい。」

○ 第二部「甲州街道を考えよう」について

「私も中学1年～3年まで、文化祭で八王子の事を調べていた。中学1年生の時は甲州街道を歩き、その魅力を強く感じた。この講座もその事を思い出させてくれる内容で、とても面白かった。」

「八王子の魅力にあまり気づけていなかった自分もいたので、今回知ることができて改めて自慢の市だなと思った。昔の雰囲気が残っている間に行ってみたい。」

○ 第二部「甲州街道についてのパネルディスカッション」について

「市役所の三吉さんの、地域によって発達するものやアピールポイントが違うという意見にとっても共感できた。」

「さらなる活性化は高校生や大学生に任されているな、と感じた。これを機に、さまざまな企画が進めばいいと思う。」

「それぞれの視点からの意見を言い合うことで今後の課題や望めることも見えてきて、新しい公開講座の形態がおもしろいと思った。」

また、本講座は、地域連携および高大連携をそのねらいに取り込んだ公開講座としては新しい試みであったが、プログラムに大学・高校・地域・市民をつなぐパネルディスカッションを取り入れるなど、進行のコントロールという面で講座運営側には負荷の高い方法にもあえて挑んだ。

講座や授業は、その進行の中で当初の予定や見込みから外れ、思わぬ形の成果として着地する部分が少なからずある。双方向性の強い要素を取り入れるほどその影響は大きくなるが、反面、受講者の関与度や主体性の高まりから、成果として受講者自身に構築される内容はより強いものとなるように感じられる。

様々な教育の段階・課程において導入が取り上げられるアクティブラーニングであるが、講

座や授業のねらいを勘案し、課題調査形式やディスカッション形式など、様々な形式から適した手法を選択することで、知の「分かち合い」である教育の成果がより高まる可能性を、講座運営側として実感した。

6. おわりに

「共立女子大学 共立女子短期大学 八王子キャンパス公開講座2018」を高大連携、地域をテーマにした公開講座とする初めての試みであった。掴みきれない要素ばかりで試行錯誤の連続ではあったが、多くの方々のご協力をいただき無事終了する事ができた。公開講座は終わったが、運営に携わってくださった全ての方々、そして学生・生徒にもたらした達成感というこの上ない人生の喜びとして深く胸に刻まれた。

どんな講座もどんな授業も全ては「ライブ」である。理想は高揚するほどのライブ感である。高揚するライブ感が達成感をもたらす。多少の失敗も乗り越える高揚するライブ感である。高揚するライブ感を実現する為には、そのような場が必要である。それは一方通行ではなく常に相手を尊重し、自分自身を解放し、安心して自由に交流できる場である。それらを一言で言えば「分かち合い」である。

この第1回目の高大連携、地域をテーマにした公開講座において、学生・生徒が得たものは、デザインという手段を通して人間交流体験が出来た事が何よりの教育効果であったと筆者は信じて疑わない。

謝辞

本講座を実現するにあたりご尽力いただいた千代田区および八王子市の皆様をはじめ、共立女子学園 学生課の職員の皆様、共立アカデミーの職員の皆様、そして共立女子第二中学校高等学校の教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

参考文献および資料

- 1) 田中裕子, 林田廣伸. 共立女子大学におけるグラフィックデザイン教育の実践: 神保町周辺活性化デザイン計画 (提案) 2016. 共立女子大学家政学部紀要, 64号, 2018年, P.93-107
- 2) 大高利一郎・増補改訂版 街道を歩く—甲州街道. 揺籃社, 2011年
- 3) 甲州夢街道～八王子・相模湖・藤野エリア (八王子商工会議所・相模湖商工会・藤野商工会). 甲州古道案内図(八王子・相模湖・藤野編), 2018年 ※パネリストの一人、八王子市産業振興部の三吉徳浩氏より提供いただいた資料
- 4) (株)ピックス. 国立歩記 (あるき) (vol.43), 2018年夏 ※編集は共立二高・共立大OG 小林未央氏
- 5) 坂本呉服店. ゆかた×さんぽ, 2015年 ※社長は共立二中高・共立短大OG 坂本直美氏
- 6) Museum+ 制作委員会. Slow Life ～ていねいに暮らす ミュージアムから始まる豊かな毎日, 2017年
- 7) JIMOTO 制作スタッフ. JIMOTO HACHIOJI, 2015年
- 8) 公開講座終了後、受講者 (高校生1・2年生、一般) に対し、アンケート調査を実施した。調査総数は受講者336名 (高校生309名、一般27名)、有効回答数は (高校生262名、一般16名) であった。